

## 中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 非感染性自然免疫活性化機構の全貌解明
2. 研究代表者： 倉石 貴透（金沢大学 医薬保健研究域薬学系 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、感染非依存的な自然免疫活性化の分子メカニズムを解明するために、つまむ刺激から抗菌ペプチドの発現・自然免疫活性化の機構解明に挑むことを目的としている。

フェーズ1では、つまみ刺激による抗菌ペプチド Drosomycin の発現誘導に関わる構成因子 Bap60 を見出した。非感染性自然免疫活性化に関連する分子や経路を明らかにしつつ多面的なアプローチで研究を進めており、新たな因子の同定が見込まれる。目標達成に向けて精力的に取り組み、成果も十分に得られている。フェーズ2の研究計画において、つまむ刺激を感知する非感染性自然免疫センサーを同定することを主要な目標としている。また、つまむ刺激以外に非感染性自然免疫を誘導する刺激の探索も計画に盛り込まれており、適切な計画となっている。つまむ刺激以外の他の刺激との共通性を見出すことで生理的な意義や新たなセンサーを見出して行くことを期待する。

以上